

【投 稿 規 定】

(名称) 国立障害者リハビリテーションセンター研究紀要
〔略称:国リハ研紀〕

Research Bulletin, National Rehabilitation Center
for Persons with Disabilities

〔略称:Nat. Rehab. Res. Bull., Jpn.〕

1. 本研究紀要は原則として年1回発行し、当センター職員の研究論文(当センター職員の指導による、または共同によるものを含む)を掲載するものとする。ただし、上記以外の論文で特に編集委員会の認めたものは掲載することができる。
2. 投稿原稿の採否の決定は編集委員会において行い、結果は文書をもって著者に通知する。編集方針に従って原稿の加筆、削除または書き直しが求められることがある。
3. 投稿原稿は原則として他の刊行物に未発表、未投稿のものとする。
4. 原稿は、邦文または英文により記載する。原稿はテキストファイル出力可能なワープロソフトにより作成する。なお、英文原稿の文法等に関する責任は、筆者が負うものとする。
5. 投稿原稿は、総説、論文、短報、資料、その他のいずれかの区分に投稿するものとする。採用された論文の区分は、編集委員会において決定する。

総説：特定の主題について、既に公表されている情報の分析、検討に基づいて独創的な見解を展開したもの。特定の主題に関する一連の論文をまとめた総合論文を含む。

論文：障害者のリハビリテーションのために有用で新規な結論、概念等を展開したと評価される完結した独創的な研究成果をまとめた論文。

短報：断片的であっても価値のある事実、データ、方法などをまとめた論文。

資料：障害者のリハビリテーションに有用で価値ある事実、データ、症例、方法、事例等をまとめたもの。

その他：障害者のリハビリテーションに有用なテーマで総説、論文、短報、資料のいずれにも属さないもの。

6. 原稿の長さは原則として、総説は刷り上がり20ページ以内、論文、資料は刷り上がり12ページ以内、短報は刷り上がり4ページ以内とする。なお、内容によってはこの制限以内であっても短縮することを求めることがある。
7. 邦文原稿の記載方法は、第1ページについては、表題、著者名、英文表題、英文著者名、英文要旨(200語程度。但し、短報の場合は100語程度)、キーワード(4~8語)、所属、英文所属、本文の順に記す。なお、著者名・英文著者名の右上、所属・英文所属の前にはアスタリスク(*)を記す。
英文原稿は、英文で表題、著者名、要旨(邦文と同様の語数)、キーワード、本文の順とし、本文欄下には英文所属を記す。著者名及び所属にはアスタリスク(*)を記す。本文は原則として、序論、方法、結果、考察、結論、文献、付録の順序に項目別に記述する。ただし、短報の場合は、この順序に従って記すが、項目別とはしない。

原稿の中で、英数字は半角文字をカタカナは全角文字を

使用する。

8. 計量単位は原則として国際単位系(SI)を用いる。
9. 図面については図面ごとに別紙に著者が作成し、著者名、図の番号(図1、2…のごとく記す。)、図の題及び説明を記入する。表(表1、2…)の場合も図に準ずるが、Excel等を用いて作成する。
図や表は本文のあとにそれぞれまとめて添付する。

10. 文献の引用は本文中に「……山田[3]によれば・・・」のごとく記す。文献番号は文中表出順とする。文献は論文末の文献の項に次の要領で記載する。

「雑誌の場合」著者名,論文名, 誌名, 巻数,号数,出版年,はじめのページ-おわりのページ. この場合、誌名は定められた略語を用いる。

「単行書の場合」著者名, 章の見出し, 書名, 版表示, 出版地, 出版者, 出版年, はじめのページ-おわりのページ, (シリーズ名,シリーズ番号), (I S B N) (言語の表示) (媒体表示)

「国際会議報告書の場合」著者名, 論文名, 会議報告書名, 編者名, 会議開催地, 会議開催年月, 会議主催機関名, 出版地, 出版者, 出版年, はじめのページ-おわりのページ. (I S B N) (言語の表示) (媒体表示) ※媒体表示はCD-ROMなど。

〔記載例〕

- 1) 佐藤徳太郎, 中島八十一, 長岡正範. 高次脳機能障害支援モデル事業におけるデータベースとその解析. リハビリテーション医学. 40 (9), 2003, p. 570-575.
- 2) Hari,R.,Nishitani, N. Chp.24.From viewing of movememts to imitation and understanding of other persons acts:MEG studies of the human mirror-neuron system. Attention and Performance XX. Oxford,Oxford University Press, 2004, p.xxx-yyy.
- 3) 中内秀雄,エラストマー製品のミクロ解析. 第45回ゴム技術シンポジウム:エラストマー製品の寿命と信頼性. 日本ゴム協会研究部会編. 東京, 1996-01, 日本ゴム協会研究部会. 東京, 1996, p. 38-48.

11. 事務局は、研究紀要を発行する際に、受付日(投稿原稿を受付けた日)及び採択日(編集委員会での採否決定日)をキーワードと本文の間に付すこととする。

〔記載例〕

2007年8月31日受付

2008年1月10日採択

12. 採用された原稿は著者に返却しない。
13. 掲載された論文等は、他の雑誌もしくは書籍または電子媒体等に収録する場合には、当センター研究紀要編集委員会の許諾を受けることを必要とする。
14. 掲載された論文等は、掲載号の刊行後に当センターホームページで論文等の全文を公開するものとする。
15. 投稿についての問い合わせ先および投稿原稿の提出先は当センター企画・情報部企画課内「研究紀要編集委員会事務局」とする。